

2019（令和元）年10月24日

2019（令和元）年度関西保育福祉専門学校

第1回学校関係者評価委員会報告

本校の学校関係者評価委員会設置要綱に基づき設置した学校関係者評価委員会において、第1回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、概要をお知らせいたします。

1 開催期日 令和元年8月26日（月）15:00～17:00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校校長室

3 出席者

■ 学校関係者評価委員

NO	委員名	所属等	出欠
1	長部俊弘 委員	社会福祉法人長陽会 ニコニコ桜保育園 理事長兼園長	出席
2	田渕勝彦 委員	社会福祉法人みおつくし福祉会 更生施設大阪市立淀川寮 施設長	出席
3	田中稔弘 委員	社会福祉法人 明石恵泉福祉会 西宮恵泉 施設長	出席
4	児玉敏男 委員	兵庫県立尼崎高等学校 校長	出席
5	濱本亜紀 委員	保育科1年生 保護者	出席
6	山下知一 委員	宝塚さざんかの家 所長	出席
7	松本陽介 委員	学校法人阪急学園 いるか幼稚園 園長	出席

■ 学校教職員

NO	名前	所属等	出欠
1	本 田 あけみ	校長	出席
2	細 川 明 子	教頭	出席
3	山 本 晴 彦	保育科学科長	出席
4	尾 崎 朋 子	介護福祉科学科長	出席
5	榎 本 優 人	自己評価委員会 委員長	出席
6	藤 井 和 子	教務部長	出席
7	早 川 京 子	入試広報部長	出席
8	藤 田 千 波	学生指導部長	出席
9	吉 田 し の ぶ	就職指導部長	出席
10	竹 島 康 夫	事務局次長	出席
11	古 田 佳 予 子	事務局係長	出席

■ オブザーバー

藤 木 清	関西国際大学 評価センター長 経営学部 教授
-------	------------------------

4 概 要

(1) 校長挨拶

藤木オブザーバー挨拶

(2) 委員長の選出

委員長に山下 知一 委員が選出された。

(3) 報告

報告事項1 「2018（平成30）年度関西保育福祉専門学校自己評価報告書」について

■ 学校から、年度末で数字が確定した箇所などを説明

報告事項2 学校の現状について

■ 学校から、資料に基づき説明

(4) 協議

報告事項1 2019年度の取り組みについて

①事業計画書並びに学校経営重点目標

■ 学校から、資料に基づき説明

②学校の取り組みについて

■ 学校から、資料に基づき説明

□ 委員の主な質問・意見

<連携奨学金制度・ペイドインターンシップ制度>

○ この委員会では提言したことが実を結んだ取り組みである。

○ 連携奨学金制度は、施設としても人材確保の一助となる制度ではあるが、返却されなかった場合の対応や原資をどうするかなど、考えたうえで取り組むことになる。

○ 就職が内定した後の研修状況を学校が把握しておく必要がある。

○ アルバイトであっても、収入が103万円を超えると所得税が課せられる。働く時間を考慮する必要がある。

○ ペイドインターンシップに取り組まれている大学があり、大学生を受け入れている。条件として、報酬を出して働いてもらう限りは、コンスタントに来てもらうことにしている。シフトが決まった形で、固定的な仕事をしてもらうことが理想と考える。

○ 奨学金制度を取り入れる際は、覚書が必要である。

○ 連携奨学金制度についての選考基準はあるか

→本校の教育職員によって構成する会議において、審査の上で候補者を選考し、奨学金貸与施設に決定していただく。

実際にお金をもらうという重みを感じることができる。奨学金制度は、人間関係で悩んでいる学生にとっては、年度途中からでも貸与できると利用しやすい。

○ 奨学金やペイドインターンシップについての説明は、入学からの予定にしているが、人材確保から考えると、高校時代から保育補助として働くことは可能であるか。

→施設としては、未成年である18歳を雇用することは、ハードルが高い。高校生本人のことを学校や事業所が連携し理解できていることが前提になると考える。

市内の高校生に運動会の手伝いを募集している。ただし、報酬金は発生しない。

○ 土曜日、日曜日のみのインターンシップは、施設としては厳しい。平日に雇用できる体制が必要である。

○ リスク面も考慮した上で高校生の保護者への説明を行う必要性があるのではないか。ア

ルバイトの場合は、事故が起こった場合自己責任となるがインターシップの場合は、自己責任にならない等の説明が必要である。

<広報活動について>

- 地域に根差している学校という点を、広くアピールする。
- 広報では、学校で何に取り組んでいるのか、そのことによってどのような成果が生まれているのかを具体的に伝えることが大事である。
- 保育科に入学したいと高校時代から決めていた。ホームページを見ることで具体的な学校生活を知ることができる。
- ホームページのセキュリティ対策をしっかり行う必要がある。
- 施設でもホームページをリニューアルすることによって、職員の学校に対する意識が変わる。
- 入学対象学生、社会人がホームページを見ることによって、何を知らうとしているのかを探ることが大事である。
- ホームページ更新がしやすいシステムづくりに取り組む。
- スマートフォン対応ができるシステムにしてほしい。
- 大阪では、法人主催や社会福祉協議会主催の就職フェアへの参加者が激減している現状がある。魅力的なオープンキャンパスなど取り組みが必要である。
- 本校に興味・関心がもてるように、オープンキャンパスは、毎回内容を変えて取り組むなどの工夫が必要である。

<保育科の取り組みについて>

■ 学校から、資料に基づき説明

今年度よりルーブリックを活用する実習評価を実習する幼稚園、保育所、施設に依頼している。実習担当者の主観になってしまいがちであった評価をルーブリック評価することで行動目標を具体化できる。実習先の評価と自己評価を比較し、課題を明確にして求められる保育者像を意識して取り組むことができる。ルーブリック評価において到達レベルの低い項目を分析し、実習指導に活かすようにする

□ 委員の主な質問・意見

- 実習に見通しを持てるようになると、ペイドインターシップへのシフトが組みやすくなると考える。
- ルーブリックに記入されていない評価は、所見の欄に書くようになっているのか
→ ルーブリックの項目による評価だけではなく、学生が努力していたところや課題は、従来とおなじく所見欄に書くようになっている。
- 実習評価表は、相対的、主観的になりがちであったが、具体的な評価の指標が示されるので、評価しやすくなる。
- 日々のレポートも大事であると考えてるので、レポート指導にも取り組んでほしい。

<介護福祉科の取り組みについて>

■ 学校から、資料に基づき説明

外国人留学生が増加しており、日本語指導や授業の補充指導などに取り組んでいる。訪問介護実習1日は、ホームヘルパーと一緒に利用者の家に行き支援を行うので、買い物の計画書を書き、何をどこで買うかを考える実習を取り入れている。

□ 委員の主な質問・意見

- 高齢者施設では、職員不足のため、施設の一部閉鎖もあり得る状況。外国人留学生の人材育成に力を入れている。

- 若い世代は、核家族化により、祖父母と一緒に住んだ経験が少なくなっている現状があり、就職を考えた時に、福祉という考えになりにくい。
- 小学校への出前授業も行っているが、イメージが悪い。福祉に対する低賃金や処遇に対するイメージが先行している。処遇改善が進み、給料も高くなっていることを学校からもアピールしてほしい。
- 一般的に福祉の仕事をアピールするには、一般企業よりもやりがいがある仕事であることを伝えていくことが大事である。
- 結婚後も続けられる仕事であることも伝えてほしい。

(5) オブザーバーからのご意見

- ルーブリックは、学生にとっての評価であり、自分にとってのアピールになる。
- ルーブリックを基に、実習先訪問で話をするのが大事である。
- 実習後、まとめて振り返り、何が身につけていないかを意識できるようにすることが必要である。
- ペイドインターシップは、アルバイトと違い職業教育なので振り返りをするのが大事である。

(6) 事務連絡

- 第2回の会議は、来年の2月末に予定しており、学校自己評価報告書に対する評価をお願いする。